

[資料]

## 看護学部1年生の学習意欲と学習時間および 学習理解度との関連

菊池 昭江

### THE RELATIONSHIP BETWEEN LEARNING MOTIVATION AND STUDYING TIME AND THE LEVEL OF UNDERSTANDING IN FIRST GRADE NURSING STUDENTS

Akie KIKUCHI

本研究の目的は、看護学部1年生の学習意欲と学習時間および学習理解度との関連性を検討することである。平成11年6月17日の講義終了後に、1年生80名に対して質問紙調査を実施した。学習意欲の測定には、学習動機2要因モデル(市川, 1995)を参考にして作成した、看護学生の学習意欲測定尺度(LMNS)を用いた。有効回答が得られた77名を分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. 看護学部学生の学習意欲の構造は、“看護の専門性・自尊志向”、“実用・充実志向”、“看護への興味・関心”といった3つの因子から成り立っていた。
2. 入学前よりも入学後に学習時間が増えた学生ほど、大学での講義内容に対する理解度が高かった。
3. 得られた知識の実用性や充実感を求める“実用・充実志向”の高い学生ほど、入学後の学習時間が増加していた。一方、学習意欲と学習理解度との関連性は認められなかった。

キーワード：看護学生、学習意欲、学習時間、学習理解度

#### Abstract

The purpose of this study was to explore the structure of learning motivation in nursing students and to investigate the relationships between learning motivation and studying time and the level of understandings of nursing studies. Based on the two-factor model of learning motivation devoted by Ichikawa (1995), the scale for the Learning Motivation of Nursing Students (LMNS) was administered toward seventy-seven female students in the first grade of university nursing school. The results were as follows:

- 1) Factor analysis conducted for the LMNS revealed three interpretable factors named “Professionalism and self-esteem”, “Practical ability” and “Interest in nursing”.
- 2) Students who increased their studying time after the admission of the university had significantly higher scores on learning understanding than the students who decreased.
- 3) The higher score of “Practical ability” associated with increasing the studying time after the admission. But learning motivation had not related with the degree of learning understanding in nursing students.

Key Words: Nursing student, Learning motivation, Studying time, The degree of learning understanding

## I. はじめに

看護婦（士）を志望する学生達は、一般大学生に比べて職業レディネス（職業人となるための心理的準備の程度）や就職確信度（最も希望する職業に就職できると確信する程度）が高く、就労継続の意欲も高いと言われる<sup>1)</sup>。これは、文化系などの学生が明確な職業イメージを持たずに入学するのに比べて、看護系学生は看護婦（士）という職業に動機づけられて入学してくる。その後も看護の専門的知識・技術を身につけながら、臨床実習を通して職業についての志向や行動様式、価値観、規範などを獲得しやすいというように、入学動機や教育課程の相違によるものと考えられる。これまでも、看護学生の看護職に対する愛着や誇り、一体感といった職業的アイデンティティおよび看護職への志向は、入学直後に高いことが指摘されている<sup>2),3)</sup>。これら看護学生の看護職への志望の強さや進路適合感及び満足感などは、その後の学習を動機づけ継続させる要因であることが明らかになっている<sup>4)-8)</sup>。さらに、看護学生の達成動機には対人的な要因が深く関与していると言われている<sup>9)</sup>。真島<sup>10)</sup>も、日本人の学習動機には他人との積極的な感情的関係を確立し、維持・回復しようとする「親和動機」が関与していると述べている。女子の進学率が高い看護系大学においては、関係志向の動機には学習自体への興味や報酬としての意味合いが弱いものの、学習動機の重要な要素であると考えられる。また、看護専門職を目指す看護学生では、看護婦（士）資格や処遇・給与など外的価値を手に入れるための道具として学習を進めていることもあると考えられる。

そこで、本研究では、看護学生の学習意欲を学習者の学習内容そのものを求める内発的動機と、報酬という外発的動機といった動機づけの観点から捉えていくこととする。

また、谷島ら<sup>11)</sup>は、課題の内発的価値を追求する“課題志向”や学業や行事に積極的に取り組もうとする“参加”、さらにはクラスに調和しようとする“協調”などの学習動機が教科の能力認知に強い影響力を持つことを見出している。このことは、看護学生においても学習動機づけの高い者ほど、大学での講義内容への理解度が高く、主体的に学習に取り組んでいるのではないかと推測される。このように教科目をどの程度理解することができているかという学習理解度と学習意欲との関連性についても検討する必要がある。

## II. 用語の操作的定義

本研究で用いる学習意欲とは、看護の専門的学習に意欲的に取り組み、学習を継続しようとする行動を方向づける内発的および外発的動機を指す。

## III. 研究目的

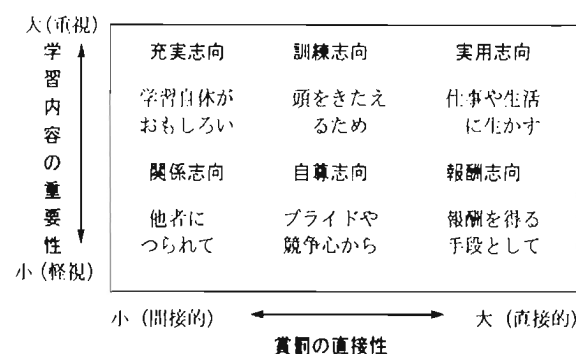
本研究では、看護学部1年生の学習意欲を動機づけの観点から明らかにし、学習意欲と学習時間および学習理解度との関連性を検討することを目的とする。

## IV. 研究方法

### 1. 測定用具

#### (1) 学習意欲の測定

学習意欲を測定する項目の選定には、市川<sup>12)</sup>が大学生の学習する理由を基に学習動機を構造化した学習動機2要因モデルを参考にした。図1に示すようにこのモデルの特徴は、学習による直接的報酬をどの程度期待しているかという賞罰の直接性（外発的動機）と、学習内容そのものを重視しているかという学習内容の重要性（内発的動機）の二つの側面から捉えている。このモデルを用いることにより、看護学生に特徴的である他者との同調的な動機や看護技術を身に付けようとする訓練志向、看護を実践したいので学習するという実用志向など、看護学生に特有な動機が存在が明らかになるものと考えた。



出所) 市川 真一, 学習と教育の心理学, 岩波書店, 1995, p21.

図1 学習動機の2要因モデル

充実志向は、「看護を学ぶのはそれ自体が楽しい」「看護方法がわかるとおもしろい」「充実感が得られる」、訓練志向は「考える力が身につく」「人間性が豊かになる」「指導力や研究能力が身につく」、実用志向は「現実に役立つとは思えない(逆転項目)」「生きていく上でとても

役立つ」「普段の生活に生かせる」、関係志向は「みんながやっているの、なんとなく」「友達と一緒に勉強できるのが楽しいから」「看護婦（あるいは保健婦、助産婦）にあこがれて」、自尊志向は「他人に負けたくない」「勉強ができると優越感がある」「テストがあるから」、報酬志向は「看護婦の資格を得るため、しかたなく（逆転項目）」「学歴や地位、高収入が得られる」「親や先生にやらされている」のそれぞれ3項目ずつ、合計18項目の尺度を作成した。各項目に対して「かなりそう思う」「少しはそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」までの5段階評定を求め、順に5～1点を与え得点化した。否定的な意味を持つ項目については集計時に得点を反転させ、得点が高いほど各側面での動機が高いことを示すよう配点した。なお、このモデルにおいては各動機間の相関が低いことが確認されている。

## (2) 学習理解度の測定

学習理解度については、大学における講義内容をどのくらい理解することができているのかという、学習に関する個人の主観的な理解の程度を調べるために、「容易に理解できる」から「少しの時間をかければ理解できる」「多くの時間をかければ理解できる」「かなり時間をかけても理解が難しい」までの4項目を作成した。4段階評定(4～1点)とし、高得点であるほど学習理解度が高いことを示している。

## 2. 調査の手続き

調査は、T大学の看護学部1年生80名を対象にして、平成11年6月17日の講義終了後に集団で実施した。調査票を配布し、対象者に教示文(研究の目的、プライバシーは厳守すること、調査への参加は自由であること)を読みながら口頭で補足説明を与え、回答終了後に回収箱へ投函するよう求めた。調査票は無記名にて78部を回収し、回答不十分を除く77部について解析を行った(有効回答率96.25%)。結果は、段階値を得点化し因子分析(主因子法、バリマックス回転)によって進め、学習時間や学習理解度との関連性の検討にはpearsonの積率相関係数を求めた。

なお、解析には統計解析ソフトウェアSPSS 8.0Jを用いた。

## V. 結果

### 1. 対象の特性

対象者の年齢は18歳から23歳で平均18.51歳、そのう

ち文化系大学卒業者が1名含まれていた。アパートで一人暮らしをしている学生が9割を占め、入学前の学習時間は1日当たり平均4.94±2.10時間、入学後は予習・復習に当てる時間の1日当たり平均.85±.83時間であった。

## 2. 学習意欲測定尺度の構造

### (1) 因子分析

学習動機18項目で因子分析を行ったところ、「科目試験があるから」の項目は極端に共通性が低かったので削除し、17項目で因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行った。その結果、第4因子と第5因子は1項目のみの負荷量が高く、第4因子以降の固有値が極端に小さくなることから、3因子で解釈することが適当であると思われる。表1は、因子分析の結果を示している。各因子に

表1 学習意欲の因子分析

項目	F 1	F 2	F 3	共通性
<b>第1因子：看護の専門性・自尊志向</b>				
勉強ができると優越感があるから	.766	-.110	.043	.621
ふだんの生活に生かせるから	.588	.417	.033	.532
指導力や研究能力が身に付くから	.531	.118	-.008	.400
学歴や地位、高収入が得られるから	.530	-.275	-.046	.361
他人に負けたくないから	.487	-.024	.098	.448
友達と一緒に勉強できるのが楽しいから	.472	.292	.330	.434
<b>第2因子：実用・充実志向</b>				
看護婦の資格を得るため、しかたなく	-.233	.618	.100	.469
人間性が豊かになるから	.014	.603	.150	.476
充実感が得られるから	.090	.545	.048	.344
現実に関心とは思えないが、しかたなく	-.199	.507	.327	.452
生きていく上でとても役立つから	.245	.453	.055	.270
<b>第3因子：看護への興味・関心</b>				
看護方法がわかるとおもしろいから	.112	.273	.831	.780
看護を学ぶのはそれ自体が楽しいから	-.050	.141	.761	.686
n=76	因子の寄与率 (%)	13.01	12.51	10.48
	累積寄与率 (%)	13.01	25.52	36.00

注) \*は、逆転項目

.400以上の負荷量を示した項目を手がかりとして、各因子の解釈と命名を行ったところ、第1因子は「勉強ができると優越感があるから」「指導力や研究能力が身につくから」「学歴や地位、高収入が得られるから」など競争心や自尊心、看護専門職としての職業的地位や能力を求める外発的動機を示す項目の負荷量が高かったため、「看護の専門性・自尊志向」因子と命名した。第2因子は、「人間性が豊かになるから」や「充実感が得られるから」など、学習者自身の向上心に根ざした内発的動機を表す項目を含んでいることから、「実用・充実志向」因子と名づけた。「看護婦(士)の資格を得るため、しかたなく(逆転項目)」という看護婦(士)免許取得への動機は、看護の専門性や自己の優越性など報酬を期待することよりは、免許が自分の人生に役立ち自己実現の手段となるという

意味合いが強いものと解釈された。また、「ふだんの生活に生かせるから」は第1・2因子の両方に寄与し、看護の専門性を希求する外発的動機が実用性といった内発的動機に結びついていることを示している。さらに、第3因子は、「看護方法がわかるとおもしろいから」と「看護を学ぶのはそれ自身が楽しいから」の項目で負荷量が高く、看護の専門的知識・技術そのものへの興味・関心といった内発的動機を示す項目から構成されていたので、「看護への興味・関心」因子と命名した。なお、これら3因子による説明率は全分散の36.0%であった。

#### (2) 信頼性の検討

学習意欲測定尺度の内的整合性を検討するために、Cronbachの $\alpha$ 係数を求めた。その結果を示したものが表2である。第1因子：看護の専門性・自尊志向では.71、第2因子：実用・充実志向では.68、第3因子：看護への興味・関心では.81となり、本尺度全体では.71であった。第2因子でやや低いものの、尺度全体としての内部一貫性は保持された。

表2 学習意欲尺度における各因子の信頼性係数

サブカテゴリー	項目数	Cronbach's $\alpha$
第1因子：看護の専門性・自尊志向	6	.71
第2因子：実用・充実志向	5	.68
第3因子：看護への興味・関心	2	.81
全体	13	.71

さらに、第1因子から3因子までの各因子総得点と項目得点との相関係数を求め、学習意欲サブカテゴリーの内部相関を検討した。表3に示すように、すべての組み合わせ

表3 学習意欲の下位項目得点の平均と標準偏差、項目合計値間の相関

	M	SD	相関
看護の専門性・自尊志向			
勉強ができると優越感があるから	1.83	1.00	.78***
ふだんの生活に生かせるから	4.14	.72	.62***
指導力や研究能力が身につくから	3.26	1.00	.61***
学歴や地位、高収入が得られるから	2.21	1.14	.63***
他人に負けたくないから	1.47	.86	.60***
友達と一緒に勉強するのが楽しいから	3.18	1.10	.63***
合計値	16.06	3.76	
実用・充実志向			
看護婦の資格を得るため、しかたなく	4.29	.85	.73***
人間性が豊かになるから	4.34	.70	.70***
充実感が得られるから	4.17	.91	.71***
現実に役立つとは思えないが、しかたなく	4.76	.56	.66***
生きていく上でとても役立つから	4.47	.72	.54***
合計値	22.06	2.51	
看護への興味・関心			
看護方法がわかるとおもしろいから	4.42	.80	.91***
看護を学ぶのはそれ自身が楽しいから	4.12	.94	.93***
合計値	8.54	1.60	

注) \*は、逆転項目

n=76, \*\*\*P<.001

わせにおいて $\gamma = .54 \sim .93$  ( $p < .001$ ) の高い値が得られた。以上の結果から看護学部学生の学習意欲を表す動機には、第1因子(看護の専門性・自尊志向)6項目、第2因子(実用・充実志向)5項目、第3因子(看護への興味・関心)2項目の合計13項目を採用することにした。

### 3. 学習意欲と学習時間、学習理解度との関連

#### (1) 学習時間と学習理解度との相関(表4)

入学前及び後の学習時間と学習理解度との間の相関は低かったが、入学後学習時間数から入学前学習時間数を減じた学習時間差との間では5%水準で有意な正の相関が得られた。入学前後の学習時間の多さは、学習理解の程度と関連が認められなかったが、入学前よりも入学後に学習時間が増えた学生では、学習理解度が高くなる傾向が示された。

表4 学習時間と学習理解度との相関

学習時間	n=	M (STD)	学習理解度
入学前の学習時間	72	4.94 $\pm$ 2.10	.118
入学後の学習時間	76	.85 $\pm$ .83	.129
入学後-入学前学習時間	72	-4.13 $\pm$ 1.88	.233*

\*P<.05

#### (2) 学習意欲と学習時間及び学習理解度との相関(表5)

“実用・充実志向”は入学前の学習時間との間では負の、入学前後の学習時間差との間で正の有意な相関が認められた(いずれも $p < .05$ )。すなわち、看護婦(士)になることを目指し、看護の学習を通して自らの内面的成長と充実感を得ることができると考えている学生ほど、入学以前の学習時間は少ないが入学後により多くの時間をかけて学習するようになっていた。このことは、看護婦資格を取得するという明確な目標を持つこと、自らの内面的成長や知識の実用性といった動機に基づく意欲の高い学生ほど、入学後により意欲的に学習に取り組むことができていることを示している。このことから、競争心を

表5 学習意欲と学習時間との相関

学習意欲	学習時間			学習理解度 n=76
	入学前 n=76	入学後 n=72	入学後-入学前 n=72	
看護の専門性・自尊志向	-.023	.077	.070	.069
実用・充実志向	-.284*	-.141	.260*	.169
看護への興味・関心	-.071	.077	.093	.167
総得点	-.168	.008	.195	.175

\*P<.05

満たし専門的スキルなどの能力獲得を期待することよりも、将来の自分に役立つという実用性や学習による充実感が得られることの方が、学習を継続させる重要な要因であることが示唆された。また、学習理解度は学習意欲のいずれの項目とも相関が認められず、学習意欲は学習内容を理解する程度とは無関係であることがわかった。

## VI. 考 察

### 1. 看護学部学生の学習意欲の構造

看護学部1年生の学習意欲の構造は、因子分析により“看護の専門性・自尊志向”“実用・充実志向”“看護への興味・関心”といった3つの異なる因子から成り立つことが示された。これは、一般大学生を対象にした調査とは異なる構造を示している。市川<sup>13)</sup>の示す学習自体への興味など“充実志向”は、看護という特定領域に限定されていた。また、“訓練志向”も第1・2因子に分かれ、看護の専門性や自己の内面的成長といった具体的な能力獲得を求めて学習している姿勢が明らかになった。各因子の意味内容をみると、第1因子は看護婦(士)としての職業的地位や専門的スキルの獲得を求める動機と、他者に対して自己の優越性を示したいという動機が混在していた。これは、中学・高校・大学と受験勉強に取り組み、他者との競争原理の中で学習してきたことが、学生の学習姿勢に影響を及ぼしているものと推察される。特に、大学へ入学後間もない1年生を対象としたため、選抜入試の経験が今回の結果に少なからず影響を与えていたものと思われる。

さらに、第2因子では学習を通して自己の内面的成長を遂げることができ、生きることに役立つというように、学習を自己実現の手段として考える動機が抽出された。松下<sup>9)</sup>は、職業的同一性の高い看護学生は自己実現に重きを置いており、学習に積極的に取り組み継続する意欲の中に自己実現への期待が含まれていることを示した。本研究においても第2因子に自己実現への期待を示す動機が現れており、入学後間もない1年生でも職業への志向や満足感といった短期的目標だけではなく、将来への展望を含んだ長期的目標を持つ動機の存在が示唆された。

第3因子は、看護の専門的知識・技術に対する知的好奇心や理解欲求といった内発的動機から構成され、看護専門職を目指し進学してきた学生の特徴を表す動機が抽出された。村田<sup>5)</sup>は、看護の学習に対して意欲の高い学生は、看護に価値や興味を持ち看護への一体感を有していたと報告している。本研究においても、看護を学ぶこと

自体への興味・関心が学習意欲を構成する動機であった。このことは、1年次の成人看護学や老人看護学など看護の専門科目が入る以前の段階においても、看護への探求心が学習を動機づけ継続する要因であることを示している。

### 2. 学習意欲と学習時間および学習理解度との関係

看護学部学生の入学前後の学習時間の差は、大学での講義内容の理解度の高さと正の有意な相関を示した。すなわち、入学前よりも入学後により多くの時間をかけて学習している学生ほど学習理解度が高かった。しかし、入学後の学習時間数の多さは学習理解度に関係なかったことから、相対的な学習時間よりも一人ひとりが入学後にどれだけ学習するようになったかという、個人の学習態度の変化が問題であることが示された。言い換えれば、学生個々の主体的な学習姿勢をどう育成していくかということが、学習への理解に重要であると言えよう。

また、学習意欲と学習時間との関係は、“実用・充実志向”において入学前学習時間が負の、入学前後の学習時間差が正の有意な相関を示した。学習することに充実感や実用性を強く求める学生は、入学前の学習時間は他の学生に比べて少ないが、入学後は看護学や関連領域の学習を意欲的に学習していることが明らかになった。鹿毛<sup>13)</sup>は、学習意欲の発達を内容や状況あるいは自己に対する「こだわり」を出発点として、ある特定の学習に価値を感じ、さらにその学習が自分の生きる展望と結びつき、特定の方向を「こころざす」ことであると論じている。すなわち、学習内容、状況、自己という3つの必然性に基づく意欲が統合されたときに、学習意欲は発達していくというのである。本研究では、看護の学習は将来の自分に役立ち、学習することで充実感が得られると考えている学生ほど、これまでよりも主体的・自主的に学習に取り組んでいることが示された。このことは、現在の学習が個人の生きる展望と結びついていることが、学習意欲を高めるものであることを示唆している。学生自身が知識の実用性を信じ、自己実現の手段として学習を認識できることが重要であり、学生が学習に意味を見出せるように支援していくことが必要であると考えられる。

一方、学習意欲と学習理解度との間には、今回の調査では関連性が認められなかった。学習理解度は、学習者自身の主観的な認知を表していることから、個人の自信や劣等感などの内的特性により回答に誤差が生じたことも考慮すべきであろう。いずれにしても、学習成績といった客観的なデータとの関係により分析することが必要である。

## VII. 今後の課題

本研究は、入学後間もない看護学部1年生を対象としたため、看護学の履修時間数が少なく、看護の専門的知識・技術に関する動機づけが充分とは言えない時点での調査であった。今後は、学習進度との関連や臨床実習における対象との関わりの中で、これらの学習意欲がどのように変化していくのか検討することが必要である。

### 引用文献

- 1) 宗方比佐子：女性の発達；キャリア選択と職業観，現代のエスプリ，331，至文堂，112-125，1995.
- 2) 波多野梗，小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化，日本看護研究学会雑誌，16（4），21-27，1993.
- 3) 松下由美子：看護学生における職業的同一性形成に関する研究，第20回日本看護学会集録（看護教育），201-203，1989.
- 4) 大石杉乃，大原宏子：看護婦になろうとする意欲に影響する要因；看護学科1年生を対象として，東京都立医療短期大学紀要，5，155-164，1992.
- 5) 村田恵子：看護学生の学習意欲の深まりと看護観の変容，看護展望，18-23，1980.
- 6) 太田紀久子，神田清子，福田春枝ほか：短期大学看護学生の看護婦に対する認識，第25回日本看護学会集録（看護教育），60-62，1994.
- 7) 寺島喜代子：看護学生の学習意欲についての縦断的検討；1年次から2年次にかけての変化を通して，看護展望，22（10），74-83，1997.
- 8) 森田敏子，松本保子，松田好美ほか：看護学生の達成動機に関する研究；因子構造の2年間の比較と因子におよぼす影響，日本看護研究学会雑誌，22（3），219，1999.
- 9) 村松恵子，長谷川真美，野口和枝：看護学生の学習動機づけ過程に関する研究〔第1報〕，日本看護研究学会雑誌，22（3），217，1999.
- 10) 真島真里：学習動機づけと「自己概念」，現代のエスプリ，333，123-137，1995.
- 11) 谷島弘仁，新井邦二郎：クラスの動機づけ構造が中学生の教科の能力認知，自己調整学習方略および達成不安に及ぼす影響，教育心理学研究，44（3），84-91，1996.
- 12) 市川伸一：現代心理学入門3：学習と教育の心理学，岩波書店，18-34，1995.
- 13) 鹿毛雅治：学習意欲再考，現代のエスプリ，333，105-113，1995.